

# 第3章

## 企業や地域で活躍する高齢者像・現役世代との関係

### (第3章の要点)

- 高齢者・若年層は雇用機会不足。一方、壮年層では週60時間以上労働者が4分の1。「世代間ワークシェアリング」や人生の局面に応じた柔軟な働き方に向けた条件整備や企業の実践が必要。
- 介護、子育て、世代間交流などの地域活動への高齢者の参加も活発化。
- こうした高齢者の就業や社会参加は、高齢者自身の生きがいとともに、現役世代が抱える子育て等の問題の軽減にも役立つ。今後、このような「世代間の新たな支え合いの仕組み」が重要。

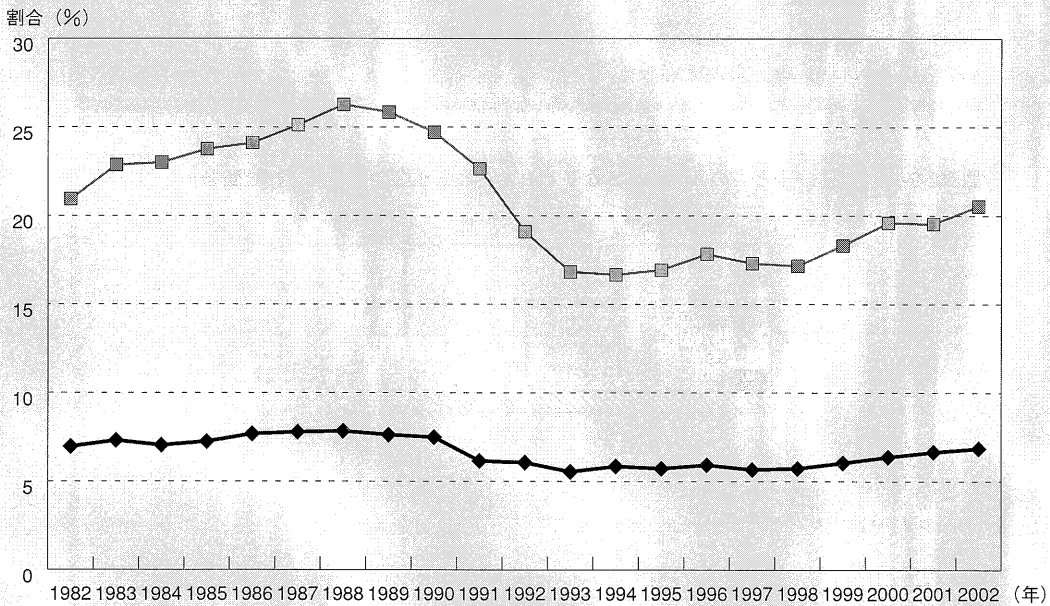
### 第1節 現役世代も含めた働き方の変化の方向

#### <我が国の働き方の現状と問題点>

##### (経済停滞の下での長時間労働)

- 1980年代後半以降、我が国の総労働時間は趨勢的に減少してきているが、最近の現象として、経済停滞の下で常用雇用者の長時間労働者割合が上昇している。

図表3-1-1 常雇週35時間以上労働者に占める週60時間以上労働者の割合の推移



資料：総務省統計局「労働力調査」

■ 割合(男性、%)    ◆ 割合(女性、%)

##### (年齢別の仕事時間は逆U字型)

- 現在の仕事時間は、高齢層と若年層は短く30代が最も長い、いわゆる逆U字型であり、自由時間の長さはその逆になっている。

過去からの変化をみると、仕事時間の長い年齢層は一層長く、短い年齢層は一層短くなっており、世代間の働き方の不均衡が目立っている。(図表3-1-5)